

# 白内障手術体験記

桑田直宏

白内障手術を 11 日に受けたので報告します。この地域で有名なツカザキ病院で受けました。近くの眼科で検査を受けた時、右目が黄斑変性症かもしれないと言われ、ツカザキ病院を紹介されたことがきっかけだった。担当医は「黄斑前膜」と診断して、しばらく様子を見ることを勧められた。その時に自分の白内障も診てもらった。先生の見立てでは、この程度の白内障では手術はしないことが多いとか。それから 4 年が経過、自分では白内障がかなり進んでいるのが分かり、今年の手術を決断した。

白内障手術は両目の手術になるが、同時に黄斑前膜手術もすることになり、右目だけの手術になった。白内障手術は高齢になるとたくさんの方が受けていて、周りも受けてよかったという反応だったので、かなり気楽な気持ちで手術室に向かった。

手術室に入ると、双眼装置のある大きな器械が目の前にあった。よく見るとツアイスのロゴがついている。

天文ファンやカメラファンにはあこがれのブランドで気分はさらに上がった。顔を固定され、右目はテープで開けたままにされて点眼の麻酔を入れられた。「目の前に見える明るい光源をじっと見ていてください」と言われ手術が始まった。手術はちょうど 1 時間だったが、結論から言うと大変だった。

手術の間、意識があるので先生の言葉がよく聞こえる。「これはやりにくいな」と何度もつぶやいていた。それを聞いた私は不安になる。さらにピンセットやいろいろなものが目の中で動いているのが右目でははっきりと見えるのがまた怖さを増した。痛さは人によって感じ方は違うようだが、どうも私は痛みに弱いようで結構辛かった。「無事に終わりましたよ」と先生が言った時には、もう我慢の限界に近かった。どれくらい長い時間感じたか、、、。両目を選択しなくて本当によかったと思う。

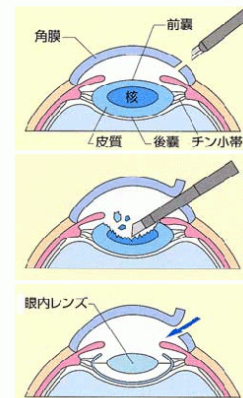
当日は入院して、翌日の朝に検査で診療室に向かった。看護師に昨夜の手術の大変さを伝えると、「みなさんそうおっしゃいます。結構大変なんです。」「ところが、その後によく見える目になった喜びの方が印象に残って、忘れてしまうのです。」と言うのである。

いよいよ右目の眼帯を外した。まだ少しぼやけているが、なんとなく明るく感じる。左目はそのままなので、右目と左目を交互に手で隠して比べてみた。すると明らかに色や明るさが違うことにびっくりした。人工レンズを入れた右目で見ると壁が真っ白なのに、左目では同じ壁が黄色味を帯びた白になる。何度やっても同じだった。普通のコピー紙と再生紙を使った白の色の違いのイメージに近い。天井の蛍光灯を見ても明るさが違う。若い時はこんなに明るく色鮮やかに見えていたのだろうかとも思った。

その日の夜、自宅から夜空を少し見上げてみた。同じように右目と左目を交互に隠して見比べてみたが、こちらはあまり変わらないか、どちらかというとな左目の方がよく見えるような気がした。

個人差はあるが、安定して見えるようになるまで 6 か月くらいかかるようである。望遠鏡で星雲星団を見たときにどう見えるかは後日また報告します。

■超音波水晶体乳化吸引術



眼球を切開し、水晶体の前嚢を切り取る。



水晶体の核と皮質を超音波で碎き、吸引して取り出す。後嚢とチン小帯は残す。



残った後嚢の中に、眼内レンズを挿入する。